

# 地域経済活性化の必要性に関する 歴史的考察

——神戸市の事例——

関 谷 次 博

## はじめに

1970年から2006年までの京阪神都市圏を事例として、ショッピングセンター(SC)の開設年次と、SCの立地する中心地の商業人口(立地中心地の販売額/(京阪神販売額/京阪神人口))の成長率の関係を分析した研究によれば、開設年次の若いSCほど、より高い商業人口成長率となっていることが指摘されている。とりわけ、1999年から2006年の成長率は他の年次に比べてはるかに高い率であることから、この時期の新型SCは革新的であった<sup>(1)</sup>としている。

革新的な新型SCとしてアウトレットが含まれるとすれば、拙稿において筆者は次のような指摘をした。アウトレットの地域商業に対するインパクトは販売額の面からすれば確かに大きいものの、当該地域の活性化という面については疑問である。それというのも、地元商店街は、アウトレット開設後において、衰退することもなければ、発展することもなかった。周辺地域からの雇用も多くはなく、買い物客の周辺観光への波及もない。アウトレットの売上は都市部にある本部に吸収されるから、法人税の支払いによって地元が潤うわけでもな<sup>(2)</sup>い。

---

(1) 田村正紀『立地創造—イノベータの行動と商業中心地の興亡—』白桃書房、2008年、173～175頁。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

田村の場合、商業立地や集積に関心をもたれているから、地域への影響、すなわち商業がもたらす外部性といったところにまで考慮されているわけではない。売買や取引のみならず、商業集積がもたらす「街づくり」といった部分にまで拡張して検討する必要がある<sup>(3)</sup>。

本稿でもまた、商業のもたらす「街づくり」への影響を前稿に引き続いて考えてみたい。

## 1. ファッション都市宣言のなかの洋菓子

拙稿では、神戸・阪神間の歴史から、地域経済の持続可能性を検討した。ここでの結論は、およそ以下のようである<sup>(4)</sup>。

かつての商工業が牽引する人口増加を目標とした発展ではなく、企業と地域住民による新たな付加価値を生む文化資本の共創という、人口減少を前提とした地域づくりが必要である。そのためには地域に根差した企業に注目をあて、企業と地域との関係について、歴史を振り返るとともに、それから将来を構想するという取り組みを考えている。

以上の内容にしたがって、本稿では、拙稿までに明らかにした歴史から、より詳細な歴史描写に移行したい。拙稿で掲出した表では、神戸市の商業を創業年毎に分け、そのデータをもとに大正期と昭和期にわけ、その数について総平均よりもプラスであるか、マイナスであるかを示し、以下のような分類をおこなった。

①大正期には少なかったが、昭和期に増えた産業（マイナスからプラスへ）：  
最も新しい産業

---

(2) 拙稿「地域の商業の歴史におけるアウトレットの影響—岐阜県土岐市の事例から—」、『神戸学院経済学論集』第49巻第3号、2017年。

(3) 石原武政『小売業の外部性とまちづくり』有斐閣、2006年、14頁。

(4) 拙稿「住民の暮らしから考える地域経済—神戸・阪神間を事例として—」、『神戸学院経済学論集』第49巻第1・2号、2019年。

- ②大正期から昭和期にかけて増え続けた産業（プラスからプラスへ）：比較的新しい産業
- ③大正期には増えたが、昭和期にはそれほど増えなかった産業（プラスからマイナスへ）：比較的古い産業
- ④大正期から昭和期にかけてそれほど増えていない産業（マイナスからマイナスへ）：最も古い産業

本稿では、上記①のなかでも最も数値の高かった菓子に注目する。表1において、1923年と1932年で比較した。1923年、すなわち大正期では確認できない店舗が、1932年の昭和期に確認できる。代表的なのが、モロゾフ製菓やジャーマン・ホームベーカリーである。これらは調査直後の大正期に神戸に開業した店である。

最寄品については、消費者がその購買に特別な努力を払わないから、店舗においても消費者からのアクセスを重視するため、小規模零細な分散型になりやすい。

菓子はその傾向が強いが、洋菓子となると異なる。

いつからか神戸は「洋菓子の街」「スイーツの街」といわれ、神戸で売られている洋菓子は「神戸スイーツ」といわれるようになった。これは、森元伸枝『洋菓子の経営学—「神戸スイーツ」に学ぶ地場産業育成の戦略』に書かれた一文である。<sup>(5)</sup> たしかに、阪神間には多くの洋菓子店がある。全国的に展開しているものから、この地域だけに店舗を構えるものまで大小さまざまである。上記のイメージが形成された理由として、森元の著書と、政策投資銀行の<sup>(6)</sup>調査では次のようにまとめられる。開港とともに、この地域の異文化交流がすすみ、洋菓子が普及する素地ができた。それと同時に、阪神間における高級住

---

(5) 森元伸枝『洋菓子の経営学—「神戸スイーツ」に学ぶ地場産業育成の戦略』プレジデント社、2009年、15頁。

(6) 「洋菓子でつくりクール神戸～神戸における洋菓子産業の現状分析～」政策投資銀行関西支店、2014年2月。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

表1. 神戸市内の菓子商

分類：菓子・餅・饅頭・麵包及び同原料

1932年

商号	代表者名	営業所	営業品目
合名会社まびらや	内藤正次	神戸区 船	
貝原商店	貝原近太郎	神戸区	菓子
亀井堂総本店	松井福三郎	神戸区	煎餠, 菓子
きねや総本店	吉田一松	神戸区	生菓子, 干菓子
セントラルベーカリー	村井忠義	神戸区	洋菓子, 食パン, 味付パン, ビスケット
タマキ麵包店	藤田資太郎	神戸区	菓子パン, 食パン, 洋菓子
合名会社高田屋本店	高田文次	神戸区	菓子及び花あられ
高砂屋	杉田政一	神戸区	菓子, 煎餅
天進堂	八幡満次郎	神戸区	菓子, 食料品, 煙草
長崎屋本店	角本亀蔵	神戸区	長崎カステラ, 洋生菓子その他菓子
長崎文明堂	宮崎甚左	神戸区	カステラ, 寒菊, 文旦漬, ホンタン羊羹
西村食糧品株式会社	瀧本登一	神戸区	各種パン, 洋菓子, 和洋食料品
濱田商店	濱田善次	神戸区	菓子
長谷川商店	長谷川常太郎	神戸区	各種パン, コーヒー, 紅茶, 食料品, バター, ジャム
合名会社神戸風月堂	吉川進	神戸区	菓子
マルヲ	松尾秀吉	神戸区	パン一式
餅徳	白石徳松	神戸区	餅, 饅頭, 蒸物
ユーハイム	カール・ユーハイム	神戸区	洋菓子, チョコレート, ビスケット
ジャーマンホームベーカリー	フロインドリーブ	神戸区	パン, ケーキ
松花堂	松野一太郎	神戸区	瓦煎餅
江戸屋	鈴木セキ	須磨区	和洋菓子, 一般食料品, 飲料水
大師餅	岩崎種次良	須磨区	餅, 饅頭
植垣商店	植垣與市右衛門	林田区	花あられ, 塩煎餅, 豆腐菓子, 各種, 肉卵ボール
神戸モロゾフ製菓株式会社	代表取締役葛野友徳	林田区	チョコレート, キャンデー, ビスケット, その他一般洋菓子類
一心堂	豊田勝二	兵庫区	菓子
河本日之出総本店	河本金雄	兵庫区	煎餠, 洋酒, 喫茶
河本日之出総本店支店	河本金雄	兵庫区	煎餠, 洋酒, コーヒー, 紅茶
亀井堂支店	西脇初三郎	兵庫区	煎餅, 森永製品, その他和洋菓子
亀乃井亀井堂湊川支店	峯松春太郎	兵庫区	瓦煎餅, 菓子
株式会社岸本商店	岸本理三郎	兵庫区	水飴, 靴下
楠田商店	楠田市藏	兵庫区	各種製菓原料, 澱粉, 辛味嗜好料, 雑穀類, 烏飼類
合資会社駒屋	栗山孫兵衛	兵庫区	菓子, 餅
岩佐商店	岩佐栄三	兵庫区	餅, 餠, 瓶詰各種水飴
塩見生飴所	塩見健吉	兵庫区	生飴
ツルヤ	上田豊	兵庫区	パン, ケーキ
春馬商店	春馬龍助	兵庫区	製菓原料の煎豆並び木炭, 薪
濱田商店	濱田いち	兵庫区	餅
萬来堂	横野信二	兵庫区	チュウイングム, チョコレート, キャラメル, ゼリー, サクラモチ, 味付延スルメ
マルキパン	増井林一	兵庫区	パン, 菓子, タバコ
元村屋	林竹治郎	兵庫区	菓子類一式
吉本商店	吉本晋吉	兵庫区	和洋菓子一般, 自家製品掛物類, 餠菓子類
安藤商店	安藤専次	葦合区	餠, 菓子
日栄堂	久野弥三郎	葦合区	祝餅, 生菓子, 饅頭
合名会社丸三伊藤神戸支店	伊藤栄信	葦合区	菓子
味正堂	古谷伝吉	葦合区	餅, 饅頭
杵屋支店	西本うめ	湊区	菓子
音羽堂	鈴木音蔵	湊東区	干菓子, 蒸菓子
かんじろ餠	徳田クラ	湊東区	餠
菊水煎餅本家	岸本岩吉	湊東区	瓦煎餅
北村商店	北村勝治郎	湊東区	雑菓子, 食料品
竹内商店	竹内康次	湊東区	菓子
多聞通亀井堂	中島朝次郎	湊東区	瓦煎餅各種, 生菓子各種, 洋生菓子各種, 長崎カステラ, 銘茶各種, 食堂, 洋食喫茶, 支那料理, その他
電気パン	福井米藏	湊東区	菓子パン及び食パン, 洋生菓子, カステラ類
常盤堂本店	前田為次郎	湊東区	和洋菓子
内藤生飴所	内藤孝造	湊東区	白生あん粉, 赤生あん粉
花見煎餅吾妻屋神戸店	浅沼和作	湊東区	花見煎餅, 花見あられ, その他菓子類一般
深川神港堂	弓削かね	湊東区	菓子
松月	谷口徳松	湊東区	菓子
新杵	畑牧隆	湊東区	菓子, 食料品

資料 『神戸市商工名鑑』神戸市役所商工課, 1932年。

脚注 1932年5月調査。営業収益税50円以上(1931年末現在)。会社の場合, 資本金5万円以上のもの。

宅地が形成され、彼らが洋菓子の顧客となったことで、洋菓子店の普及と、舌の肥えた客との関係が、洋菓子のブランド価値を高めた。いわば、この地域に住む客層によって支えられたということである。さらに、各都市の洋菓子店舗数について人口に対する比率で見ると、神戸市の場合、人口1万人当たり2.3店であり、これは、大阪市1.7店、東京都区部1.5店、名古屋市1.5店と比べて最も多いということになる。<sup>(7)</sup>しかし、このデータをもとに面積比であらわすと、東京都区部が1平方km当たり2.0店、大阪市1.8店、名古屋市0.9店に対して、神戸市は0.6店と最も少ない値となる。ここで問題としたいのは、どちらの統計の処理が正しいかを主張することではない。「洋菓子の街」と言われる要因は、決して洋菓子店の数ではないように思われる。開港場であるという理由も、あるいは高級住宅街があるといったことも神戸に限ったことではない。それでも「洋菓子の街」というイメージはたしかにある。

森元は、神戸と洋菓子の関係が深い理由として、1973年に提唱された「神戸ファッション都市宣言」をあげている。1972年7月に当時の神戸市長宮崎辰雄が「ファッション都市づくり」を表明した。同年11月の神戸ファッションアシエーションの設立、翌1973年1月の神戸商工会議所によっても神戸のファッション都市化が提唱された。もともとは、神戸におけるアパレル業界の発展が端緒とされているが、宣言後は、生活、都市環境、産業のトータルとしてのファッション化に重点がおかれ、生活文化関連産業を育成するという方向性によって、アパレル、真珠、ケミカルシューズ、洋菓子、洋家具、清酒などに対する育成施策が採られた。そうしたファッション関連産業は、1986年の出荷額は6200億円<sup>(8)</sup>で神戸市全産業の23.5%に相当し、これは宣言後の74年に約3400億円で18.9%のシェアであったことに比べての成長が確認された。

(7) 前掲（政策投資銀行）、2頁。

(8) ファッション都市戦略研究会「ファッション都市神戸における情報発信基地づくりの戦略」、財団法人神戸都市問題研究所編『ファッション都市の理論と実践』勁草書房、1989年、177～179頁。



主要都市別・1世帯当たり1年間の支出金額(全世帯)

表2-1. 1963年

	消費支出		食料費		パン類		菓子類			
	価額(円)	価額(円)	価額(円)	食料費に占める割合(%)	価額(円)	食料費に占める割合(%)	ケーキ		チョコレート	
							価額(円)	菓子類価額に占める割合(%)	価額(円)	菓子類価額に占める割合(%)
全国	482,957	195,784	4,121	2.1	13,521	6.9	871	6.4	765	5.7
札幌市	583,917	217,030	4,319	2.0	15,569	7.2	711	4.6	1,056	6.8
青森市	432,977	189,528	4,586	2.4	13,558	7.2	1,039	7.7	639	4.7
盛岡市	440,965	182,897	3,361	1.8	13,880	7.6	822	5.9	757	5.5
仙台市	495,989	206,069	3,572	1.7	18,566	9.0	1,259	6.8	831	4.5
秋田市	458,233	188,678	4,003	2.1	15,282	8.1	933	6.1	704	4.6
山形市	490,791	186,412	2,390	1.3	16,767	9.0	704	4.2	796	4.7
福島市	430,919	176,178	3,753	2.1	15,349	8.7	737	4.8	966	6.3
水戸市	513,716	200,963	4,692	2.3	17,927	8.9	888	5.0	1,179	6.6
宇都宮市	449,565	176,423	3,481	2.0	15,085	8.6	849	5.6	798	5.3
前橋市	437,956	177,228	3,515	2.0	14,128	8.0	784	5.5	768	5.4
浦和市	591,254	222,259	5,311	2.4	18,194	8.2	1,603	8.8	1,082	5.9
千葉市	535,237	210,887	5,071	2.4	16,606	7.9	947	5.7	997	6.0
東京都区部	641,787	254,093	6,931	2.7	19,106	7.5	2,108	11.0	1,097	5.7
横浜市	582,375	231,801	5,770	2.5	16,884	7.3	2,040	12.1	1,171	6.9
新潟市	484,018	202,978	3,770	1.9	15,685	7.7	876	5.6	846	5.4
富山市	484,195	196,902	3,380	1.7	14,696	7.5	824	5.6	1,020	6.9
金沢市	522,623	208,612	3,927	1.9	17,245	8.3	781	4.5	1,384	8.0
福井市	446,819	177,010	3,446	1.9	11,515	6.5	302	2.6	631	5.5
甲府市	496,759	192,648	4,422	2.3	16,334	8.5	1,200	7.3	779	4.8
長野市	501,472	181,639	3,497	1.9	18,907	10.4	883	4.7	1,224	6.5
岐阜市	505,804	196,718	3,686	1.9	12,291	6.2	773	6.3	645	5.2
静岡市	514,886	207,322	3,707	1.8	12,059	5.8	759	6.3	473	3.9
名古屋	573,739	220,752	4,418	2.0	14,772	6.7	1,057	7.2	717	4.9
津市	463,686	188,149	3,508	1.9	13,998	7.4	628	4.5	1,058	7.6
大津市	511,505	212,110	3,193	1.5	14,916	7.0	667	4.5	1,112	7.5
京都市	510,536	229,096	3,876	1.7	14,460	6.3	1,239	8.6	860	5.9
大阪市	543,786	232,923	4,807	2.1	13,260	5.7	951	7.2	891	6.7
神戸市	522,435	213,016	6,684	3.1	12,283	5.8	1,239	10.1	709	5.8
奈良市	503,644	206,650	3,759	1.8	13,143	6.4	710	5.4	937	7.1
和歌山市	502,064	204,691	4,646	2.3	12,014	5.9	901	7.5	1,001	8.3
鳥取市	459,912	174,067	3,294	1.9	13,977	8.0	751	5.4	828	5.9
松江市	450,010	180,862	3,405	1.9	17,532	9.7	507	2.9	1,002	5.7
岡山市	459,595	184,022	4,550	2.5	11,800	6.4	626	5.3	896	7.6
広島市	497,407	193,026	4,727	2.4	10,585	5.5	790	7.5	832	7.9
山口市	469,374	171,357	3,515	2.1	10,384	6.1	456	4.4	684	6.6
徳島市	460,110	189,011	3,063	1.6	11,406	6.0	440	3.9	568	5.0
高松市	435,078	173,330	4,031	2.3	9,326	5.4	687	7.4	628	6.7
松山市	425,193	176,676	3,202	1.8	10,753	6.1	608	5.7	615	5.7
高知市	430,715	170,524	3,330	2.0	8,146	4.8	516	6.3	396	4.9
北九州市	454,179	193,549	4,740	2.4	9,952	5.1	559	5.6	559	5.6
福岡市	492,369	198,998	4,964	2.5	11,291	5.7	792	7.0	829	7.3
佐賀市	472,806	179,859	3,926	2.2	10,594	5.9	558	5.3	597	5.6
長崎市	473,402	196,918	5,528	2.8	11,852	6.0	784	6.6	599	5.1
熊本市	403,945	173,435	2,970	1.7	9,535	5.5	587	6.2	479	5.0
大分市	466,149	181,887	2,952	1.6	12,188	6.7	666	5.5	977	8.0
宮崎市	446,606	171,172	3,410	2.0	11,226	6.6	479	4.3	685	6.1
鹿児島市	408,692	165,474	2,519	1.5	11,647	7.0	522	4.5	735	6.3

(資料)『家計調査年報』(1963年版)総理府統計局,より作成。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

表 2-2. 1973年

自治体	消費支出		食料費に占める割合(%)		1963年からの伸び率(%)														
	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)	食料費に占める割合(%)	金額(円)
奈良	1,345,304	4.59	188	8,236	30,288	8.1	100	100	3,271	11.9	349	1,451	40	1,753	0.3				
奈良市	1,458,179	4.47	260	7,562	26,729	6.0	72	3,191	11.9	349	1,451	40	1,753	0.3					
和歌山	1,168,803	4.24	691	6,640	45	75	26,686	6.3	97	4,229	15.8	307	887	3.3	39	1,095	0.3		
和歌山市	1,277,685	4.32	669	6,282	45	75	32,917	7.6	137	4,106	12.5	307	887	3.3	39	1,099	0.2		
徳島	1,355,194	4.64	327	5,645	68	58	39,038	8.4	110	5,192	13.3	312	1,528	3.9	84	1,171	0.3		
徳島市	1,456,318	4.78	243	6,713	68	58	36,666	7.7	140	5,395	14.7	478	1,710	4.7	143	1,164	0.2		
山形	1,396,340	4.65	664	5,345	124	52	37,525	8.1	124	5,179	8.5	352	1,127	3.0	42	1,620	0.2		
福島	1,245,762	4.53	622	5,217	13	52	33,097	7.6	116	2,985	10.1	305	1,218	8.2	78	948	0.2		
福島市	1,384,439	4.53	622	5,217	13	52	33,097	7.6	116	2,985	10.1	305	1,218	8.2	78	948	0.2		
宮崎	1,282,107	4.52	919	7,109	19	63	38,449	9.9	114	3,809	9.3	348	1,279	4.8	52	1,389	0.3		
宮崎県	1,482,129	4.52	919	7,109	19	63	38,449	9.9	114	3,809	9.3	348	1,279	4.8	52	1,389	0.3		
宮崎市	1,311,199	4.41	177	7,429	17	110	32,088	7.3	127	2,662	8.3	240	88	760	0.2				
浦和	1,540,248	4.97	687	9,871	2.0	86	39,430	7.9	117	4,251	10.8	305	1,642	4.2	65	1,723	0.3		
千葉	1,564,956	5.08	729	10,239	2.0	102	39,535	7.8	138	4,262	10.8	350	1,642	4.2	65	1,781	0.4		
千葉県	1,594,891	5.44	1,170	10,848	2.0	57	37,005	6.8	94	4,684	12.7	122	1,524	3.1	39	2,707	0.5		
東京	1,586,417	5.28	1,157	10,312	2.0	79	35,483	6.7	110	5,442	15.3	167	1,373	3.9	17	1,524	0.3		
東京市	1,520,546	4.98	319	8,062	1.7	114	33,084	6.8	111	5,597	10.9	311	1,537	4.6	82	2,267	0.5		
新潟	1,329,600	4.55	605	6,962	1.6	106	31,329	7.0	113	2,734	8.7	252	1,525	4.9	50	1,630	0.4		
新潟市	1,368,183	4.55	605	6,962	1.6	106	31,329	7.0	113	2,734	8.7	252	1,525	4.9	50	1,630	0.4		
福井	1,288,187	4.12	665	5,561	3	143	36,676	8.6	108	3,763	7.5	406	2,899	7.9	201	2,724	0.5		
福井市	1,152,820	4.08	867	6,182	1.5	40	29,018	7.3	81	3,249	11.0	171	1,328	4.5	70	1,421	0.3		
長野	1,275,755	4.04	449	6,499	1.6	86	34,295	8.5	81	3,551	10.3	300	1,649	4.8	35	1,201	0.3		
長野市	1,326,196	4.06	827	8,451	1.8	129	30,449	6.6	150	3,121	10.1	304	1,060	3.4	64	3,232	0.7		
静岡	1,389,840	4.72	720	7,728	1.6	108	28,876	6.1	139	2,846	9.9	275	946	3.3	100	1,641	0.3		
静岡市	1,421,193	5.09	681	8,423	1.7	91	36,660	7.2	147	3,999	11.0	278	1,529	4.2	113	4,659	0.9		
津市	1,459,934	4.47	547	6,022	1.3	72	32,602	7.3	133	2,492	7.6	297	1,868	5.7	77	2,057	0.5		
大津	1,410,107	5.06	552	7,974	1.6	150	33,681	6.6	126	3,298	10.1	409	1,592	4.7	43	1,371	0.3		
大津市	1,418,333	5.06	552	7,974	1.6	150	33,681	6.6	126	3,298	10.1	409	1,592	4.7	43	1,371	0.3		
大阪	1,356,294	4.08	339	9,843	2.0	105	28,485	5.7	115	2,911	10.2	296	1,827	3.1	6	3,268	0.7		
大阪府	1,477,360	4.82	381	12,288	2.5	84	28,361	5.9	130	4,123	14.6	233	1,225	4.3	73	4,063	0.8		
奈良	1,571,335	5.14	741	10,036	1.9	167	35,939	7.0	173	3,872	10.8	445	2,010	5.6	115	2,458	0.5		
和歌山	1,284,200	4.55	666	9,108	2.0	96	23,653	5.2	97	2,895	12.2	221	1,235	5.2	23	1,895	0.4		
鳥取	1,358,144	4.41	724	7,623	1.7	131	27,121	6.1	94	3,039	11.2	305	1,694	6.2	105	3,138	0.7		
松江	1,327,009	4.49	448	7,262	1.6	113	37,086	8.3	112	2,345	6.3	363	1,986	5.4	98	1,898	0.4		
岡山	1,452,048	4.45	687	9,983	2.2	119	30,173	6.8	156	3,343	11.1	434	1,821	6.0	103	2,814	0.6		
広島	1,338,295	4.02	296	8,110	2.3	114	24,895	5.7	135	2,810	11.3	286	1,203	4.8	45	4,200	1.0		
広島市	1,278,842	4.32	676	8,310	1.9	171	28,252	6.6	148	2,875	10.2	553	1,340	4.7	156	3,191	0.7		
高松	1,371,189	4.96	579	10,672	2.4	165	26,491	6.2	184	2,759	10.4	302	1,568	5.9	150	2,245	0.5		
高松市	1,384,601	4.10	825	8,485	2.1	165	29,486	7.1	174	2,575	8.7	324	1,526	5.2	148	1,843	0.4		
高知	1,149,261	4.18	675	7,232	1.7	117	18,848	4.5	151	1,966	10.4	281	805	4.3	103	3,086	0.7		
北九州	1,261,961	4.40	844	8,484	1.9	79	25,196	5.7	153	2,651	10.5	374	1,427	5.7	155	1,628	0.4		
福岡	1,268,524	4.56	137	8,666	2.0	75	23,903	5.5	112	2,362	9.9	198	1,325	5.5	60	857	0.2		
佐賀	1,257,348	4.09	306	7,011	1.7	79	23,854	6.0	125	2,249	9.4	303	1,396	5.9	134	954	0.2		
熊本	1,285,185	4.53	970	8,999	2.1	63	26,321	6.1	122	2,403	15.6	423	1,328	5.0	122	1,948	0.2		
熊本県	1,285,185	4.53	970	8,999	2.1	63	26,321	6.1	122	2,403	15.6	423	1,328	5.0	122	1,948	0.2		
熊本市	1,256,380	4.10	488	6,256	1.5	112	27,589	6.8	128	2,145	8.8	267	1,705	6.1	75	1,600	0.2		
宮城	1,190,664	3.96	608	6,973	1.8	104	27,284	6.9	143	2,748	11.4	474	1,612	5.9	133	1,345	0.3		
宮城県	1,190,664	3.96	608	6,973	1.8	104	27,284	6.9	143	2,748	11.4	474	1,612	5.9	133	1,345	0.3		
仙台	1,185,719	4.23	447	7,370	1.7	—	23,885	5.6	—	3,039	12.9	—	—	—	—	562	0.1		

(資料)『調査調査年報』(1973年版)総務局統計局、より作成。

表 2-3. 1990年

国名	消費支出		食料費		ハンズ組		菓子組		ケーキ		チョコレート		喫茶代			
	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)	金額(円)	前年比(%)		
	1990	1989	1990	1989	1990	1989	1990	1989	1990	1989	1990	1989	1990	1989		
全世帯	3,724,084	1,030,125	26,122	2.5	218	83,961	8.1	174	9,475	11.4	149	3.13	11.4	6,172	25.1	
北海道	3,572,630	926,638	23,791	2.6	223	75,699	8.2	184	10,189	13.4	219	3.8	128	3,613	0.4	
青森県	3,324,686	963,525	18,581	1.9	180	79,268	8.2	197	13,100	16.5	210	1,869	4.3	3,159	0.3	
盛岡市	3,425,649	957,556	21,642	2.1	245	86,970	9.1	164	9,882	11.1	141	1,159	2.5	4,157	0.4	
仙台市	3,902,780	995,652	21,134	2.2	274	95,874	9.4	160	10,396	12.4	140	3,123	3.3	5,029	0.5	
秋田市	3,770,833	1,008,502	22,223	2.2	251	93,152	9.2	154	11,534	12.4	114	2,826	3.0	65	3,421	0.3
山形県	3,419,140	978,400	20,129	2.1	207	87,420	8.7	158	10,110	11.8	138	3,411	3.5	1,801	0.3	
福島県	3,661,946	957,048	20,169	2.1	260	97,549	9.2	165	9,929	12.4	140	3,541	4.0	3,298	0.3	
水戸市	4,050,606	971,347	22,471	2.3	177	94,646	9.2	146	10,232	10.8	187	3,887	3.6	3,77	3,983	0.4
宇都宮市	3,817,471	1,027,239	22,418	2.3	203	93,911	9.1	185	10,397	11.2	173	3,322	3.5	120	4,046	0.4
前橋市	3,326,319	941,552	23,883	2.5	221	79,944	8.5	149	8,155	10.2	146	3,010	3.8	112	4,285	0.5
浦和市	4,296,056	1,149,033	33,054	2.9	255	101,487	8.8	157	10,578	10.4	209	3,737	3.7	7,647	0.7	
上野市	4,171,043	1,070,070	30,554	2.8	196	95,552	8.9	142	11,031	11.5	159	3,449	3.9	128	7,126	0.7
東京都	3,558,144	1,006,664	23,376	2.3	325	79,324	7.9	231	7,290	9.2	202	2,621	3.3	38	5,541	0.5
神奈川県	3,589,670	1,030,411	24,110	2.4	204	81,366	8.1	153	9,640	11.2	146	2,656	3.0	110	7,331	0.6
横浜市	3,564,979	953,278	19,771	2.0	262	87,144	8.7	161	10,644	12.2	165	2,644	3.0	44	4,589	0.5
名古屋市	3,917,216	1,033,947	25,101	2.4	197	86,315	8.3	181	10,582	12.3	229	2,769	3.2	161	20,506	2.0
静岡市	3,567,650	1,037,695	23,018	2.2	198	73,891	7.1	156	8,088	10.9	184	2,185	3.0	131	4,853	0.5
名古屋市	3,809,757	1,084,565	28,169	2.6	234	87,183	8.0	139	9,322	10.7	133	3,382	3.9	121	18,360	1.7
津市	3,575,658	1,008,599	24,506	2.4	307	90,808	9.0	179	9,540	10.5	283	3,857	3.8	85	5,530	0.5
大阪市	3,953,046	1,189,175	33,280	2.8	317	94,736	8.0	181	10,567	11.2	211	3,347	3.5	110	7,331	0.6
京都市	3,562,549	1,131,536	29,650	2.8	195	89,542	8.6	179	9,742	12.3	246	3,866	3.9	157	10,002	1.0
神戸市	3,345,867	1,018,512	32,268	3.2	163	78,322	7.7	177	10,629	13.6	188	2,322	3.0	90	8,415	0.8
奈良市	3,831,827	1,055,442	35,165	3.3	250	91,090	8.6	153	10,532	11.6	172	2,824	3.1	40	6,609	0.6
和歌山市	3,374,467	1,041,414	32,332	3.1	255	79,696	7.6	237	9,255	11.6	220	2,470	3.1	100	5,364	0.5
鳥取市	3,560,326	984,373	28,642	2.9	276	81,258	8.2	200	8,850	10.9	191	3,331	4.1	97	4,667	0.5
徳島市	3,421,380	1,000,688	28,695	2.9	295	90,990	9.1	145	7,911	8.7	237	3,519	3.9	107	4,935	0.5
松江市	3,685,435	998,133	29,333	3.0	177	81,386	8.0	179	9,813	12.1	171	3,171	4.6	135	1,546	0.2
高松市	3,407,959	999,151	27,953	2.8	207	84,366	8.4	161	9,742	11.2	171	2,727	3.1	152	3,718	0.4
山口市	3,614,574	920,097	26,142	2.8	253	76,337	8.3	210	9,088	11.9	244	2,895	3.8	52	3,947	0.4
徳島市	3,646,834	986,010	27,543	2.8	231	83,325	8.5	195	10,342	12.4	260	3,777	4.3	167	7,002	0.7
高松市	3,419,587	916,933	25,931	2.8	143	74,953	8.2	183	8,833	11.8	220	2,413	3.2	54	5,511	0.6
高知市	3,699,182	948,535	29,334	3.1	246	87,214	9.2	196	8,795	10.1	242	3,981	4.6	161	5,664	0.6
高知市	3,221,876	940,165	24,958	2.7	245	64,480	6.9	242	7,442	11.2	209	2,000	3.3	161	9,735	1.0
高知市	3,425,754	928,118	25,744	2.6	180	69,650	6.9	176	8,046	11.2	208	2,813	4.0	106	3,718	0.4
高知市	3,646,646	966,456	28,141	2.8	204	81,366	8.1	161	9,742	11.2	171	2,727	3.1	152	3,718	0.4
花岡市	3,427,083	923,655	23,559	2.5	233	74,748	8.1	213	7,882	10.5	280	3,907	4.0	165	3,283	0.4
長崎市	3,643,555	981,930	25,625	2.6	185	79,937	8.1	204	8,626	10.8	110	2,419	3.0	82	4,130	0.4
熊本市	3,232,276	917,210	20,376	2.2	219	68,943	7.5	165	8,728	12.7	183	1,929	2.8	29	2,677	0.3
大分市	3,919,082	953,785	21,571	2.3	245	82,029	8.6	196	9,058	11.0	271	3,842	4.7	125	3,524	0.4
宮崎市	3,071,294	825,627	19,740	2.4	183	65,496	7.9	140	6,934	10.6	152	2,263	3.5	40	2,538	0.3
鹿児島市	3,059,713	842,137	21,485	2.5	289	77,128	8.6	160	7,769	10.8	146	2,776	3.8	69	3,304	0.4
鹿児島市	2,880,249	776,810	20,253	2.6	175	46,653	6.3	106	8,177	16.8	169	2,669	5.3	44	2,084	0.3

(資料)『家計調査年報』(1990年版)総務庁統計局,より作成。

## 地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

合が高いことがわかる。なかでもケーキの消費支出の割合は、菓子類の消費支出の割合が全国的にも低いにもかかわらず、その高さが特徴的である。東京都区部と横浜市もケーキの消費支出の割合は同程度に高いが、これらは菓子類のそれも高かった。このことから、「神戸ファッション都市宣言」は、こうした特徴も背景にあって提唱されたものと理解することができる。

この前後として、1963年と1990年についても同様のデータで確認する。1963年の時点ですでにケーキの消費支出の割合の高さを見出すことができることから、数年間に限った一時的な現象ではなかったと言える。また、1990年においては、パン類やケーキの消費支出の割合は依然として他の市に比べると高い。ただし、1973年からの伸び率は他の市と比べた場合それほど高いわけではない。したがって、他の市においてもケーキの消費支出の割合も高く、1973年ほど神戸市が際立って高いわけではなくなっている。1970年代以降、全国的にケーキの消費が高まり、菓子の洋風化がすすんだものと考えられる。

### 3. 戦後神戸市内の菓子店の動向

表3-1、3-2は、それぞれ1952年、1972年の神戸市内の菓子・パンの取扱いをおこなっている企業について区別に記したものである。また、商業集積を重視して、同一の町・通に3軒以上あるところだけを示した。

1972年の表については、洋菓子を取り扱う企業について網掛けをし、そのうち設立年が戦前の場合を太枠で記している。

1972年の資料によって多くの洋菓子店が確認できるが、一部の地域に集中していた点にも注目される。また同資料では、店舗の設立年が記載されており、戦前の洋菓子店の存在を幾らか確認することができる。1932年の資料で注意しなければならないのは、営業収益50円以上、あるいは会社の場合、資本金5万円以上が記載されているという点である。したがって、1972年に記載されている戦前に設立起源のある洋菓子店は、1932年の時点では、小規模零細店であったか、あるいは和菓子店、ないしはパン店であった可能性がある。1952年の資

表3-1. 1952年

区	町・通	社名・店名	取扱品目
北長狹通	北長狹通	亀井堂総本店	菓子
		菊屋菓子舗	菓子
		きわや	菓子
		三明公司	菓子
		西新生堂	菓子
		徳長崎本舗	菓子
		徳福進堂	菓子
		寿本舗(三宮阪急西口店)	菓子・喫茶
		西小幡商店	生菓子
		西花見屋	花あられ・菓子
	三宮町	西豊田商店	葡萄糖・澱粉・菓子・水飴
		福太実業公司	水飴
		清月堂	洋菓子
		西ユー・ハイム・コンフェクト	洋菓子
		西神戶エビ屋	菓子
	下山手通	高砂屋	菓子
		西春月	生菓子
		西東屋ベーカリー	パン・菓子
		木村家	パン・菓子
		西村食品館	パン・菓子
		ウイングスストア	洋菓子類
		エンバイヤショップ	洋菓子類・食品類
		はりま屋	菓子
		森永商事西神戸支店	菓子・乳製品
		幸福堂	生菓子
中山手通	西梅花堂	生菓子	
	西セントラル ベーカリー	パン	
	ロイヤル	パン・菓子	
	喜久家ベーカリー	パン・ケーキ	
	西ユー・ハイム商店	洋菓子・喫茶	
	西遊大井軒身堂	菓子	
	紅梅堂本店	北西餅・和洋菓子	
	エイチ・アロイ・ドリーヴ	パン	
	西神戸木村家	パン・ケーキ・喫茶	
	神戸冷菓企業組合第二営業所 山下商店	冷菓	
元町通	寿本舗元町店	菓子・喫茶	
	幸福堂本店	生菓子	
	神戸屋	パン・喫茶	
	西神戸風月堂	和洋菓子・喫茶	
	西えびら館本店	菓子	
	西兼屋	菓子	
	西花見屋	菓子	
	森永商事西神戸支店	菓子	
	亀井堂総本店	菓子(煎餅)	
	西ヒロタ	洋菓子	
旭通	西三友堂本舗	菓子	
	宝サービス	菓子	
	西高砂屋	菓子	
	高砂屋	菓子	
	長崎屋本店	菓子	
	西高田屋長崎本舗	菓子	
	旭産業	菓子	
	西風月堂	菓子・食料品	
	ユーモア	生菓子	
	後藤ベーカリー	洋菓子	
小野柄通	太一館本舗	餅	
	小林東店	菓子	
	高田菓子館	菓子	
	水野斎	菓子	
	大阪屋八木商店	菓子・乾物	
	日進堂	菓子・パン	
	大阪屋商店	せんべい・キャラメル	
	紫田商店	落花生・あられ類	
	神戸製菓所	菓子	
	西長崎本舗	菓子	
雲井通	中久喜茂	菓子	
	神戸中央パン館	パン	
	かどや商會	菓子	
	西高田屋	菓子	
	ニュース堂	菓子	
	富久屋	菓子	
	西山野井商店	菓子	
	明治商事西神戸出張所	菓子・乳製品	
	西神戸堂	落花生	

兵庫区	荒田町	西千代や商店	菓子
		竹内屋	菓子
		神戸中央パン館	パン
		神戸冷菓企業組合	冷菓
		亀屋	菓子
	上沢通	日昇堂	菓子
		備州屋	菓子
		石井パン商店	パン
		摂津食品工業所 パン・糖直売所	パン
		タモンパン	パン
下沢通	西謙義製菓有朋売店	菓子	
	西有馬芳香堂	豆菓子	
	西富士元商店	水飴・砂糖	
	ふじや製菓所	糖類	
	西香川太郎	菓子	
中通通	オリエンタル・ベーカリー	パン	
	富久屋	水飴	
	するが屋	菓子	
	西喜楽堂製菓	ドロップス・餅・キャラメル・キャンデー	
	つるや館	パン・ケーキ	
東山町	松花堂菓子舗	菓子	
	八巻菓子店	菓子	
	金生堂製パン所	パン	
	池田菓子店	菓子	
	西西喜商店	菓子	
東灘区	魚崎町	西ハイカラ堂	パン・菓子
		西崎屋パン	パン・バター
		豊田屋	菓子
		西東京堂本店	菓子・喫茶
		アルモンドベーカリー	パン
	住吉町	石井商店	パン
		常盤堂	菓子
		西田中屋商店市場店	菓子・パン
		虎屋	酒饅頭・薄煎餅
		宮一ベーカリー	パン
本山町	西三河商店甲南営業所	パン・菓子	
	西明輪堂菓子舗	カステラ・饅頭	
	スタンダードベーカリー	パン	
	阪口町	西人船屋	菓子
		かどや商店	菓子
西宝屋		菓子	
西能美屋		菓子	
西ヒロシマ堂		菓子	
灘区	水道筋	西中島商店	菓子
		大阪屋	菓子・飲料水
		ならや製菓第五販売所	生菓子
	高羽	土橋売店	菓子
		西甲ケルフル直営六甲山商店	菓子
須磨洋菓子店	洋菓子		
長田区	長田町	西ういらや	ういら・生菓子
		西ういらや	生菓子
		西ニシムラ	パン
		西水支店	菓子
		西坂本	菓子
須磨区	六番町	西坂本	菓子
		岩崎餅利	菓子
		大崎餅本店	生菓子・乾菓子
		西木村家	パン
		西昭和商事	不二惣カラメル
月見山本町	月見山本町	朝日堂	菓子
		江戸屋	菓子・喫茶
		西明花堂	パン
		西錦昌堂	菓子・喫茶
		西亀堂本舗	煎餅・餅・カステラ・生菓子
前池町	前池町	西神港企業組合 青木営業所	冷菓・飲食料品
		西徳城谷永楽堂	菓子類
		西風光堂	パン・菓子
		西神港企業組合 きくや営業所	冷菓・清涼飲料

(資料)神戸市経済局商工課編『神戸市商工名鑑』神戸市役所, 1953年, より作成。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

表 3-2. 1972年

区	町・通	社名・店名	取扱品目	設立(年)
葺合区	旭通	神谷商事(株)	菓子	1948
		(株)藤井商店	菓子	
		(株)三松	菓子	
	熊内橋通	神戸クッキー(株)	洋菓子	1952
		松木製菓(有)	菓子	
		(有)つるや本舗	生菓子	
(株)ユーハイム・コンフェクト		洋菓子・喫茶		
兵庫区	荒田町	(有)竹内弘商店	菓子	1947
		(株)山下誠志堂	菓子	
		(有)内藤製餡所	生菓子	
	中道通	おやつセンター大阪屋	菓子	1951
		(有)鈴木商店	菓子	
		オリエンタル・ベーカリー	パン・洋菓子	
		ハプタ商店	和菓子	
	福原町	(有)岡女堂	菓子	1946
		(有)クロババーベーカリー	パン・洋菓子	
		(有)梅香堂	和菓子	
	水木通	(株)文明堂神戸支店	和洋菓子	1953
		オリエンタル酵母工業(株)	菓子原料	
		(株)千田のパン	パン・和洋菓子	
		マツヤ・ボン製菓(株)	洋菓子・喫茶	
		(株)吉田食品	冷菓	
		(有)加藤製菓	和菓子	
	湊川町	花村パン青見堂	パン・洋菓子	1926
		饅ツダのパン三徳堂	パン・和洋菓子	
		小島末広堂	和菓子	
		(有)玉川堂	和菓子	
長田区	御蔵通	時見製菓(株)	和菓子	1946
		(株)はりまや	菓子	
	長田町	(株)ういろや	生菓子	1935
		饅ニシムラ	パン・洋菓子	
灘区	桜口町	神戸製餡所	和菓子	1956
		入舟屋製菓(株)	和洋菓子	
		甲南製菓(有)	和洋生菓子	
東灘区	魚崎南町	明治製菓(株)	洋菓子	1916
		日東栄養食品(株)	冷菓	
		(株)西甚	冷菓・パン・菓子	
		(株)三宮高砂屋	和菓子	
	御影本町	ハレルヤ製菓(有)	菓子	1946
		つばや製パン(株)	パン・洋菓子	
		(株)田中屋本店	パン・和洋菓子	
		モロゾフ(株)	洋菓子・生菓子	
		昌和商事(株)	冷菓	
		山下乳業(株)	冷菓	
		(有)栄屋	和菓子	
		虎屋吉末	和菓子・生菓子	
		(株)総高砂屋	和洋菓子	
1884				

生田区	加納町	ゴンチャロフ製菓(株)	洋菓子	1923
		森岡製菓(有)	洋菓子	1908
		(株)河南堂	和菓子	1948
	北長狭通	(株)神戸木村家	菓子・パン	
		コトブキ乳業(株)	氷菓子	1950
		(有)ホンダケーキ	洋菓子	1950
		亀井堂本家	和菓子	1873
		青柳製菓(株)	和洋菓子	1952
		(有)日栄堂	和洋菓子・喫茶	1957
		お菓子のコトブキ	和洋菓子・冷菓・喫茶	1947
	三宮町	(有)長崎本店タカタ	菓子	
		(株)植村美乃助商店	生菓子・喫茶	
		(有)カスカード	パン・洋菓子・喫茶	1951
		(株)ドンク	パン・洋菓子・冷菓	1900
		コスモポリタン製菓	洋菓子	1927
		(株)とよす	和菓子	1960
		(有)香月	和菓子・喫茶	
		(株)青柳ういろ	和洋菓子	
	下山手通	(有)フランス菓子ローヤル	菓子	1951
		饅喜久家ベーカリー	パン・洋菓子	1949
		(有)ヒシヤ	パン・洋菓子	1931
		グリーン・ベーカリー	洋菓子	1951
	中山手通	森永製菓(株)神戸支店	菓子	1899
		(有)ジャーマン・ホーム・ベーカリー	パン・洋菓子	1924
	元町通	(株)モンシェリー商会	洋菓子	1955
		(株)元町ケーキ	生菓子	1946
		(株)洋菓子のヒロタ神戸支店	洋菓子・生菓子	1921
		朝日商事(株)	菓子	1902
		(株)かすてらの長崎本舗	カステラ	1946
		饅大美屋製パン所	パン・洋菓子	1923
(株)アルモンド		洋菓子	1948	
(有)神戸風月堂		洋菓子	1897	
(株)えびら館本舗		和菓子	1910	
(株)亀井堂総本店		和菓子	1873	
進光商事(株)		和洋菓子・喫茶	1967	
(有)花見屋		和菓子	1939	
(株)二つ茶屋		和洋菓子	1934	
(株)本高砂屋		和洋生菓子	1884	

(資料)『神戸商工名鑑』神戸商工会議所，1972年，より作成。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

料で確認できなかったことから後者の可能性が高いと思われる。

また、表3と同様の資料として表4は1990年のデータであるが、設立年について、「ファッション都市宣言」が提唱された1973年以前と、74年以降とに分けて、すべて掲載されたものを区別に記した。網掛け部分は洋菓子の取り扱いのある企業である。1974年以降に設立された企業は圧倒的に洋菓子を取り扱う企業が多いが、それが「ファッション都市宣言」の影響によるものか否かは不明であるが、74年からは明らかに菓子の洋風化がすすんだと言える。

戦前からあった洋菓子店について、その設立起源とともに若干の補足説明をしておこう。

神戸市の代表的な洋菓子店としてユーハイムがあるが、1972年の資料では、所在地が「東灘区住吉宮町」となっており、同地に所在する菓子店が他になかったことから表の記載から外れている。設立は1924年となっているが、別の資料では1923年の設立となっている。設立したのはカール・ユーハイムで、青島のドイツ軍俘虏として日本に来て、関東大震災後に神戸に移り住んだ。1923年11月、神戸市生田区三宮町1丁目309番地に、知人の紹介で、1階部分にユーハイム（Juchheim's）を開店とされる<sup>(9)</sup>。この店自体は、1945年8月に、ユーハイムが死去し、1947年に、ユーハイム一家、カール・ユーハイムの夫人エリーゼがドイツへ強制送還となって閉店した<sup>(10)</sup>。1948年10月に、任意組合「ユーハイム商店」が戦前にユーハイムにつとめていた山口政栄、川村勇のほか、平川五百治も加わって設立され、1950年1月には、資本金50万円の株式会社ユーハイム商店に改組した<sup>(11)</sup>。ただし、一時経営困難に陥り、1962年に、1千万円の増資とともに、アルプスバター神戸直売所の河本春男が支援に乗り出すこととなり、河本が代表取締役専務に就任した<sup>(12)</sup>。

---

(9) 『デモ私立ッテマスーユーハイム物語一』株式会社ユーハイム、1964年、51～54頁。

(10) 前掲書、103頁。

(11) 前掲書、107～113、117頁。

表4

1973年以前

区	町・通	社名・店名	取扱い品種	設立(年)	
北区	有馬町	㈱ひさご鮎木舗	和菓子	1925	
		㈲三松物産	菓子	1935	
		㈱海の花堂本舗	和菓子・喫茶	1950	
		㈱泉堂	和菓子	1953	
		㈱有馬せんべい本舗	和菓子	1957	
		㈱平野屋本舗	和菓子	1958	
	鈴蘭台北町	㈱湯乃里本舗	和菓子	1962	
		タガミ洋菓子店	パン	1969	
		松花堂	和菓子	1969	
		鈴蘭台東町	メルヘンヨネダ	洋菓子	1973
須磨区	大田町	㈱西崎製パン	パン	1938	
	北町	㈱花見屋	和菓子	1971	
	飛松町	愛知堂	和菓子	1952	
	弥栄台	神谷惣次郎㈱	菓子	1948	
	垂水区	旭が丘	㈱ヒシヤ食品	パン・洋菓子	1933
		霞ヶ丘	二見堂	和菓子	1967
		神田町	FC・ベル垂水店	菓子	1933
		清水が丘	神戸サンモービル	冷菓	1926
		城が山	ペーカショップロンドン	パン	1955
			生田堂	和菓子	1958
㈱垂水亀井堂			和菓子	1961	
竹内屋			菓子	1963	
天ノ下町			㈱本村屋	パン・洋菓子	1955
西舞子			大実堂	生菓子	1967
日向	菊栄堂本舗	和菓子	1948		
福田	㈱ホワイトローズ	菓子	1965		
星が丘	㈱ナオカペーカリー	パン	1973		
山手	昭栄堂製菓㈱	洋菓子	1926		
相生町	㈱幸福堂	和生菓子	1912		
	旭通	㈲小松ペーカリー	パン・菓子	1948	
	生田町	㈱ベニール	洋菓子	1969	
	磯上通	源利製菓㈱	和菓子	1959	
	上筋井通	神戸十字屋製菓	和菓子	1961	
	加納町	㈱河南堂	和洋菓子	1947	
		宝商事㈱神戸出張所	菓子	1950	
		㈲神戸まらみ本舗盛典堂	和菓子	1952	
		普働製菓㈱	和洋菓子	1952	
		北長狭通	キングペーカリー	パン	1953
㈲日栄堂		和洋菓子・喫茶	1958		
エドワール		洋菓子	1969		
国香通		東京堂	菓子	1961	
熊内橋通		松木製菓(有)	菓子	1952	
雲井通		㈱扇港軒	菓子	1929	
	山野井商事㈱	菓子	1935		
	菓子問屋ニュース堂	菓子	1950		
	琴ノ緒町	高田屋	菓子	1967	
	三宮町	㈱植村美之助商店	生菓子・喫茶	1952	
		㈲カスカード	パン・喫茶	1961	
		㈱三宮高砂屋	生菓子・和洋菓子	1962	
		さんちかエーワン㈱	パン・洋菓子	1965	
		㈱ローヤル	洋菓子・パン	1951	
		小林製菓(有)	洋菓子	1952	
㈱ワイラック		菓子	1953		
多聞通		㈱菊水総本店	和菓子	1868	
中町通		ショップいしおか	パン・菓子	1949	
サトウ商店		パン・菓子	1950		
中山手通	㈲ジャーマン・ホーム・ペーカリー	パン・洋菓子	1955		
	㈱スイス菓子エーデルワイス	洋菓子・パン・喫茶	1969		
	二宮町	代々木製菓㈱	菓子	1957	
	布引町	㈱イスズペーカリー	パン・洋菓子	1946	
	旗塚通	ラコル	パン	1962	
	花隈町	㈱播磨屋	和菓子	1954	
		中一商店	パン・菓子	1956	
		日暮通	㈱松原製餅所	生菓子	1948
		㈲甘栄堂	和生菓子	1948	
		湊川町	㈱小島末広堂	和菓子	1940
㈲コスモブリタン製菓		洋菓子	1926		
港島中町		㈱ユーハイム	洋菓子	1950	
ユーハイム商事㈱		菓子	1970		

中央区	元町通	㈱亀井堂総本店	和菓子	1873	
		㈱神戸戸風堂	和洋菓子・喫茶	1897	
		㈲花見屋	和菓子	1939	
		㈱吉妻屋	菓子	1951	
		㈱進光商事㈱	和洋菓子・喫茶	1967	
		㈱よびら船本舗	和菓子	1968	
		㈱シズボウ㈱	洋菓子	1969	
		日宝フーズ㈱	洋菓子	1973	
		エヌダペーカリー	パン・洋菓子	1950	
		八雲通	松永製餅㈱	生菓子	1971
村山商事㈱	菓子		1973		
山本通	西洋菓処フーケ		洋菓子・冷菓	1970	
脇浜町	大開堂		和生菓子	1955	
	佐竹田商店		和菓子	1959	
	㈲長崎屋		菓子・喫茶	1900	
腕塚町	櫻井正		和洋菓子	1933	
	福井堂		和菓子	1959	
	大橋町		㈱松月堂	パン・洋菓子	1950
			㈱長崎堂本店	菓子・喫茶	1952
		御成通	㈱やぎや	パン・生菓子	1946
	久保町	㈱明石屋	菓子	1973	
	五番町	㈲栄太楼	和菓子	1924	
	庄山町	㈱極屋	和菓子	1952	
		㈱不二屋コンフェクト	洋菓子	1964	
		長田区	㈱ういろや	生菓子	1877
㈱大西商店			生菓子	1951	
㈱ニシムラ			パン・洋菓子	1952	
西尻池町			植田米菓㈱	和菓子	1907
蓮宮通			㈱木村屋	パン・菓子・喫茶	1920
東尻池町			近畿食品工業㈱	パン・和洋菓子	1948
			ホーセン製菓㈱	菓子	1952
二葉町			丸吉産製菓	冷菓	1949
	洋菓子の店ロマン		洋菓子	1969	
水笠通	コトブキ水笠店		菓子	1935	
	おおの商店	菓子	1947		
	福留堂	生菓子	1957		
	六番町	㈱藤田パン	パン・洋菓子	1951	
	若松町	福留堂	菓子	1916	
	大石東町	㈱萬力商店	菓子	1961	
		㈲神戸コロンバス	和菓子	1970	
	岡本	こうなん美術㈱岡本支店	和菓子	1973	
	桜口町	入船屋製菓㈱	洋菓子	1952	
		入船屋菓子舗	菓子	1962	
篠原南町		マルキーズキムラヤ	パン・洋菓子	1960	
下河原通		㈲ナダシンの餅	和菓子	1937	
新在家南町		カネヒラ商事	菓子	1966	
水道筋		正木屋	菓子	1930	
鶴甲		㈱ミエル	洋菓子・喫茶	1966	
友田町		㈲三寿堂	和菓子	1951	
灘南通		㈱盛久屋	菓子	1946	
灘区		㈱ヒロシマ堂	和菓子・パン・喫茶	1948	
	浪田町	洋菓子・喫茶フルール	洋菓子・喫茶	1963	
	幸福堂	生菓子	1973		
	福住通	はていDO	パン	1963	
	船寺通	ゴーンチャロフ製菓㈱	洋菓子	1923	
		森岡製菓(有)	菓子	1956	
	都通	伊賀屋商会	菓子	1962	
		小川商店	菓子・パン	1966	
		サンナツ食品㈱	菓子	1967	
		㈲伊賀屋	菓子	1973	
宮山町		㈲ロック	洋菓子・パン	1970	
森後町		洋菓子・喫茶・パン・デザート・ロール	洋菓子・パン	1968	
大和町		柚久商店	菓子	1926	
弓太町		神戸有花堂製菓	菓子	1960	
大津和		西海堂製パン㈱神戸支店	パン・和洋菓子	1918	
西区		㈱ユーハイム・コンフェクト	洋菓子	1951	
	兵衛パン粉材	食材	1961		
高塚台	井上製餅	生菓子	1949		

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

東灘区	魚崎北町	トーアペーカリー	パン	1959
	魚崎浜町	㈱ベル	洋菓子・パン	1927
	魚崎南町	明治製菓㈱神戸支店	菓子	1916
		㈱富士川商店	菓子	1972
	甲南町	㈱田中屋支店	パン・洋菓子・和菓子	1929
		㈱本高砂屋	菓子・喫茶	1953
		㈱城野商店	菓子	1958
		㈱高砂屋	菓子	1968
	住吉本町	アルモードペーカリー	パン	1935
		お菓子のコトキ吉住吉店	和洋菓子	1953
	田中町	㈱ドンク	洋菓子・パン・喫茶	1951
	灘北通	シンキ商事㈱	菓子	1963
	西岡本	㈱天満屋商店	食材	1937
	深江北町	山城閣	菓子	1968
	深江浜町	島屋商事㈱神戸支店	パン	1939
	深江本町	神戸コロンパス	洋菓子	1970
	御影町	㈱宮本屋	菓子	1971
	御影塚町	ラブレスト製菓㈱	洋菓子	1960
	御影中町	㈱ケルン	パン・洋菓子	1946
		ヒココキ堂	菓子	1947
㈱コイケ		洋菓子・喫茶	1967	
虎屋吉木		和菓子	1830	
御影本町	モロソフ㈱	洋菓子・喫茶	1931	
	マサヤ製パン店	パン	1952	
本山北町	㈱ヤマシタアイスクリーム	冷菓・生菓子	1957	
	フロイド製菓㈱	洋菓子・喫茶	1950	
	㈱サザエ食品	和菓子	1973	
森南町	柳屋	菓子	1935	
	マル井パン	パン	1963	
兵庫区	荒田町	お菓子のフジ	菓子	1972
	荒田町	㈱内藤製粉所	生菓子	1902
		㈱南内弘商店	菓子	1948
		ふくきね本舗㈱	和菓子	1950
		日本堂	和菓子	1955
	みかさや	生菓子・洋菓子	1965	
	㈱栄谷製菓	和菓子	1965	
	㈱ヒノモト	和洋菓子	1965	
	大井通	㈱エフエル	生菓子	1970
	大開通	江崎グロコ㈱近畿横浜支店神戸支店	菓子	1972
	笠松通	ケキハウス イワセ たつや	洋菓子・和菓子	1965
	小松通	㈱サナガワ	パン・洋菓子	1921
		ふじやペーカリー	パン・生菓子	1948
	下沢通	シセイ食品工業㈱	洋菓子	1957
	新開地	㈱福進堂総本店	和菓子・生菓子	1965
	須佐野通	㈱後藤商店	菓子	1969
	塚本通	田頭製菓本舗	和菓子	1947
	出在家町	ユカ商事㈱	菓子	1964
	中道通	八木米菓㈱	和菓子	1951
		オリエンタルペーカリー	パン・洋菓子	1947
幸福堂	和菓子	1951		
勢興食品㈱	冷菓	1969		
西多聞通	戸部商事㈱	冷菓	1972	
西柳原町	兵庫製粉㈱	生菓子	1955	
羽衣通	㈱梅花堂	生菓子	1919	
	㈱兵庫するが屋	和洋菓子	1946	
東山町	㈱松花堂本舗	菓子	1927	
	楠堂本家	和菓子	1927	
福原町	新高砂屋	洋菓子	1961	
	㈱岡女堂	和菓子	1952	
	㈱文明堂神戸店	和洋菓子	1953	
	㈱梅香堂	和菓子	1961	
本町	㈱タローペーカリー	パン・洋菓子・喫茶	1967	
	孝月堂パン㈱	パン・和洋菓子	1906	
松本通	幸茂製菓	菓子	1937	
水本通	㈱千田のパン	パン・和洋菓子	1937	
	㈱加藤商店	和菓子	1955	
湊川町	㈱花村のパン	パン・洋菓子	1926	
	法亀商店	食材	1946	
矢部町	㈱ツダのパン・三徳堂	パン・和洋菓子	1962	
	湊川ことぶき	和洋菓子	1971	
和岡宮通	中津	菓子	1955	
	福住堂	パン・菓子	1952	

1974年以降

区	町・通	社名・店名	取扱ひ品種	設立(年)
北区	有野台	㈱コトブキ	菓子	1976
	有馬町	㈱インスターフェイスグループ	パン・菓子	1986
	皇台	㈱サシク・フレール	パン・菓子	1981
	大池	ローザンズ大池店	パン	1975
	甲空台	松風堂	和菓子	1979
	広陵町	㈱ペーカリーレオノール	パン・洋菓子	1988
	五葉	㈱クク	パン	1988
	鈴蘭台北町	マイリネーベ	菓子・生菓子	1980
	鈴蘭台東町	㈱ワールド	パン・洋菓子	1983
	鈴蘭大西町	㈱ノンパレル大西	パン・菓子	1987
	緑町	タカラフネ北鈴蘭台店	和洋菓子	1979
	須磨区	南五葉	㈱シソー	洋菓子・喫茶
山田町		㈱はうらく堂	菓子	1981
有野町		㈱としや	和菓子	1975
車字濱ノ下		㈱丸富商事	菓子	1987
大黒町		にらめっこ板宿店	菓子	1983
月見山本町		㈱アール洋菓子店	洋菓子	1980
飛松町		㈱サンフラワー	菓子	1986
飛松町		㈱月庵本舗	生菓子	1975
東落合		㈱アロジエクト神戸	洋菓子	1987
向陽		リリハ重水店	洋菓子	1977
五色山		㈱レゾンドウシェフ	和洋菓子	1983
塩屋町		シーホース	洋菓子・喫茶	1977
垂水区	清水が丘	㈱三幸商会	菓子	1987
	天ノ下町	すざや	和菓子	1976
	東重水	㈱ロリアン	洋菓子・パン	1985
	平磯	㈱リストワール	パン・和洋菓子	1983
	本多聞	洋菓子の店リハ	洋菓子	1974
	桃山台	みのや	パン・和菓子	1983
	陸ノ町	㈱陸ノマルキパン	パン	1982
	相生町	ユーデラルヴィス神戸駅前店	洋菓子	1974
	磯辺通	㈱協和	食材	1974
	磯辺通	協協商事㈱	菓子	1985
	海岸通	㈱ハセガワ	食材	1986
	加納町	㈱大納言	和菓子	1988
北長狭通	㈱亀の井亀井堂本家	和菓子	1979	
京町	セクター・フーズ㈱	洋・和菓子・喫茶	1984	
鰯内橋通	㈱つるや本舗	生菓子	1987	
下山手通	新二宮餅	和菓子	1979	
大日通	㈱いずみ屋ペーカリー	パン・洋菓子	1985	
中山手通	㈱アンテノール	パン・洋菓子	1978	
中央区	御幸通	㈱アラン	パン・菓子	1984
	御幸通	㈱神戸フアイブ	菓子	1988
	元町通	ホームステッド㈱	菓子	1979
	元町通	㈱ドイペーカリー・コロソパン	パン	1982
	山本通	㈱アール・コウベ	和洋菓子	1984
	山本通	㈱パティスリジヤムエラン	洋菓子	1987
	御幸通	宮田商店	菓子	1976
	御幸通	玉川堂	和菓子	1977
	御影敷通	㈱山口洋菓子店	洋菓子	1975
	久保町	㈱ホルス	パン	1987
	戸崎通	㈱ペークションブルービー	菓子	1986
	花山町	お菓子のコトブキ長田店	菓子・喫茶	1978
長田区	二葉町	㈱元禄本舗	菓子・和菓子	1979
	岩屋北町	十字屋製菓	菓子	1987
	上野通	㈱フチペーカリー	パン・菓子	1988
	大石南町	㈱製菓㈱	菓子	1981
	神ノ木通	㈱サンライフ商事㈱	菓子	1975
	倉石通	㈱竹千代	パン	1986
	桜口町	イリフネ商店	菓子	1976
	城内通	㈱本飯飯屋	菓子	1976
	新在家北町	ローザンズ新在家	パン	1979
	水造筋	㈱美吉堂本舗	菓子	1975
	高徳町	㈱オイスパッパ㈱	洋菓子	1984
	徳井町	㈱寄川商店	食材	1982
水手町	にらめっこフォレスト六甲店	菓子	1985	
灘区	浜田町	㈱スライス菓子	生菓子	1978
	山田町	㈱ケーニヒスコロネ	洋菓子・パン	1977

西区	王塚第	㈲モンテローズ	パン・和洋菓子	1989
	飛台	㈲ケイワイ	パン	1987
	高塚台	㈲タカラブネ神戸工場	和洋菓子・冷菓	1982
東灘区	玉津町	ヨコノ食品㈱	菓子	1981
	青木	㈲サン	パン	1976
		㈲ファースト・ペーカリー	パン・喫茶	1980
	魚崎浜町	㈲大阪ベル	洋菓子・パン・喫茶	1976
	魚崎南町	㈲ニコール	菓子	1974
	岡本	タカラブネ本店	生菓子・和菓子	1976
		㈲タリゲン	パン・菓子	1982
	住吉台	焼きたてのパントミーズ	パン	1979
	住吉本町	住吉マルイパン	パン	1977
		ケーキハウスコッパリア	洋菓子	1978
	深江北町	㈲ペイク・ショップ・ミヤモト	パン	1983
		㈲ゾフイ	パン・喫茶	1985
	御影塚町	ラフネスト商事㈱	洋菓子	1983
	御影本町	万両堂	菓子	1979
	本山南町	㈲兵栄	菓子	1975
兵庫区	大井通	エリザベス洋菓子店	洋菓子・パン	1981
	大間通	ファンシー製菓㈱	洋菓子	1982
	三川口町	ライラック商事㈱	和洋菓子	1987
	塚本通	㈲ロシエル	パン・菓子	1984
	中道通	㈲ハプタ商店	菓子	1982
	羽坂通	喜楽堂製菓㈱	菓子	1982
	浜中町	㈲神戸ロイヤルフーズ	パン・和洋菓子	1986
	東山町	㈲金生堂	パン・洋菓子	1976
	湊山町	㈲フタバ・イン・コウベ	パン・洋菓子	1984

設立年不明

区	町・通	社名・店名	取扱い品種
北区	有野台	ショップはら	パン
	道場町	古川製菓	菓子
	大田町	高階商事㈱	菓子
須磨区	堀池町	㈲ボック	洋菓子
	星が丘	美吉堂	パン・和菓子
垂水区	北長狭通	㈲ヤナギ商店	パン・菓子
		神戸鐘堂	洋菓子
	楠町	㈲竹内屋本店	菓子
	三宮町	㈲尾州屋	菓子
	多聞通	㈲藤治郎船本舗満月堂	和菓子
	旗塚通	㈲水口製菓工場	菓子
	東雲通	㈲ダイワ	菓子・喫茶
		㈲二つ茶屋	菓子・喫茶
	元町通	㈲大英屋製パン所	パン・洋菓子
		㈲元町ケーキ	洋菓子
長田区	若菜通	麻耶食品㈱	和菓子
	御船通	㈲はりまや	菓子
	西山町	㈲十河製菓所	菓子
灘区	浜添通	㈲ナカタパン	パン・菓子
	日吉町	フレツシス	パン
	島崎子町	森永製菓㈲神戸支店	菓子
西区	中郷町	林屋製菓㈱	菓子
	伊川谷町	阪神製菓㈱	和菓子・洋菓子・パン
東灘区	青木	白安堂	パン・菓子
	魚崎南町	日東栄興食品㈱	冷菓
	深江浜町	㈲東和	菓子
		昌和商事㈱	冷菓
	御影本町	ハレルヤ製菓㈱	和洋生菓子
兵庫区	荒田町	西川商店	菓子
		㈲山下誠志堂	菓子
	石井町	㈲マル井パン総本店	パン・洋菓子
	上沢通	㈲タモンパン洋菓子店	パン・洋菓子
		㈲甘幸堂	和洋菓子
	下沢通	㈲金沢商店(金時)	和生菓子
	塚本通	幸福堂	菓子
	中道通	㈲豪婆	食材
	西多聞通	㈲牛尾商店	和菓子
	本町	岩田商店	菓業
湊山町	㈲二葉ペーカリー	パン・洋菓子・喫茶	

(資料)『神戸商工名鑑』神戸商工会議所，1991年，より作成。

また、もう1店の代表的な洋菓子店としてモロゾフをあげる。同社を創業したのはワレンティン・モロゾフである。ワレンティン・モロゾフ一家はロシア革命からロシアを離れ、ハルビン、シアトルを経由し、最終的に行き着いた先が神戸であった。そこで、チョコレート菓子に目をつけ、トアロードに一軒の店を借り、ピアンコフという職人を招き、1926年(大正15)年に「Confectionery F.MOROZOFF」(F・モロゾフ洋菓子店)を開店したとされる。当時の日本で

(12) 『バームクーヘンに咲く花—ユーハイム70年の発展の軌跡—』株式会社ユーハイム，1991年，68～73頁。

(13) 川又一英『大正十五年の聖バレンタイン 日本でチョコレートをつくったV・F・モロゾフ物語』PHP 研究所，1984年，66頁。

地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

のチョコレートは駄菓子で、高級チョコレートはなかった。1931（昭和6）年6月に、代表取締役任に葛野友槌が就任し、神戸モロゾフ製菓株式会社が設立された<sup>(14)</sup>。ただし、その後の展開は紆余曲折で、経営方針をめぐり内部で対立があり、モロゾフ自身は、チョコレート・キャンディの製造販売権を失うとともに、モロゾフの商号使用を禁じられることになった<sup>(15)</sup>。モロゾフは、その後、バレンタイン製菓店を起業するが、戦争により焼失、戦後に、コスモポリタンという新たな店を開店するも2006年に廃業した。

上記以外にも代表的な洋菓子店は存在するが、以上2店を説明したのは、神戸市の場合、旧居留地＝洋菓子＝ファッションという単一的な捉え方がなされ易いが、その起源を的確に捉える必要があるからである。旧居留地という特色もあって戦前より洋菓子店が存在したことを強調されるが、第一次大戦にともなうドイツ人俘虜や、ロシア革命からの移住といった世界史の出来事も大きく影響している。

## おわりに

地域住民の参加は前稿からの重要なキーワードである。この点について、神戸市の場合、住民参加が進んでいる自治体といわれているが、それに対して痛烈な批判をしているのが、塩崎賢明「神戸市都市計画における参加と協働」<sup>(16)</sup>である。本書によれば、それは美談にすぎず、実際には行政が先導し、その後にコンサルタントや有力な協力者がまとめる点で、翼賛的と指摘している。したがって、住民参加の方法について、計画段階からの住民の真の参加を訴えかけているが、その意見について、否定はしないが肯定もできない。一口に言えば腑に落ちない。そのようなかたちで住民が参加したとしても、結果として「まちづくり」にどれほど効果があるのだろうか。住民が参加することが目標となっ

---

(14) 前掲書、114頁。

(15) 前掲書、132頁。

(16) 広原盛明編著『開発主義神戸の思想と経営』日本経済評論社、2001年に所収。

ているように感じられる。

また、松永桂子は、中川理『風景学 風景と景観をめぐる歴史と現在』<sup>(17)</sup>からの引用で、外部者からの意味づけがあって、はじめて魅力的なまちという認識がされるとしている。つまり、地域住民にとっては生活の一部に過ぎないが、それが旅行者によって価値を与えられ、他に伝播し追体験されると、魅力的なまち<sup>(18)</sup>というかたちができあがることになる。これは極めて重要な指摘であって、まちづくりのプレーヤーとして、地域住民のほかに、旅行者ということになる。

ところで、私は、およそ地方鉄道に関する研究に取り組んで以後、地域経済活性化に関心をもって研究をすすめてきた。ところが、現時点においても一つの疑問が拭い去れない。それは、地域経済活性化とは何か、なぜ地域経済活性化が必要なのだろうかということである。いま地域経済研究の大部分は、おそらく地域経済活性化であろうし、何の疑問もなく賑わいを取り戻すための施策や、人口増加の方法が考察されることであろう。しかしながら、本稿において上記の疑問に答えるどころか、ますます考えさせられた。

本稿で取り上げた1973年の「神戸ファッション都市宣言」は、今日で言うところの地域経済活性化策であった。そして、神戸市は現在までもこのファッション都市の再定義をおこない推し進めているのである。明らかに今日の神戸の特徴をあらわしている。そして、その原点をたどると、戦前に、ドイツやロシアから日本に渡った人々による洋菓子店の開業があげられようが、この事例だけをもって、洋菓子の街が形成されたとは言い難い。1932年の資料によれば、洋菓子店はなお少なく、和菓子店が多く存在していた。ただし、神戸区、林田区といった今日の中央区、長田区の一部の地域に洋菓子店がいくらかあったという点は注目される。こうした戦前の神戸の印象は、谷崎潤一郎の『細雪』や、淀川長治の『淀川長治自伝』に出てくる一部の地域、ならびに一部の富裕層に

(17) 中川理『風景学 風景と景観をめぐる歴史と現在』共立出版株式会社、2008年。

(18) 松永桂子『ローカル志向の時代 働き方、産業、経済を考えるヒント』光文社、2015年、147～149頁。

## 地域経済活性化の必要性に関する歴史的考察

見られた現象に過ぎず、一般大衆にまでそれが及んでいたのではなかったのではないだろうか。1952年の資料においても洋菓子店の存在はそれほど確認できなかった。

「神戸ファッション都市宣言」が提唱された1973年に、家計消費の面から捉えた資料によれば、神戸市は菓子類消費支出に占めるケーキの消費支出の割合が全国的にも高いことが確認された。それは1963年にもあらわれていた現象である。全国的にその割合が高かったのは東京都区部と横浜市であり、これと並ぶくらいの割合は他に見られなかった。しかし、1952年の資料では、洋菓子店をそれほど確認できなかったことから、その後、1960年代を通じて急速に展開されたと考えられる。1963年から73年にかけてのケーキの消費支出は、全国では菓子類消費支出に占める割合が10.8%で、この間の成長率が276%であった。同時期の神戸市は、消費支出割合が14.6%、成長率が233%であったから、もともとケーキに対する消費支出割合が高かった上に、全国的な消費支出の成長とも重なってさらに消費が伸びていったということになる。1972年の資料において、地域的な存在についても確認すると、戦前に設立された店舗が生田区元町通と東灘区御影本町に多くある。そして生田区には、戦後に設立された店舗が多数存在する。戦前の洋菓子店の影響があったとするのは単純で、この戦前と戦後をつなぐ要因解明については改めて検討する必要がある。

ただし、本稿で強調したいのは、1973年の「神戸ファッション都市宣言」以前において、洋菓子の街がすでに形成されていたということと、同宣言は現状を追認したに過ぎないということである。そして、なぜそのような街の特徴が形成されたのかという原点に立ち返って街のあり方を考えていかなければならない。街づくりは行政の施策によるものではなく、地域住民からの文化形成によらなければならない。この点に関して言えば、神戸市は住民参加がすすんでいることを完全に否定することはできない。ただし、安易に肯定することもできない。おそらく印象としてあって、それに行政が後追いついたというのが正しいのではないか。「神戸ファッション都市宣言」はまさにそのような事例だと

言える。行政が関われば関わるほど住民不在となり、当該地に住む地域住民こそが、どのような地域を望むのかを考えるべきであるにもかかわらず、地域住民が関与しないものとなっている。

地域経済活性化とは何か、なぜ地域経済活性化が必要なのだろうか。この疑問に答えるべくさらに研究を積み重ねていきたい。